

韓国語を母語とする日本語学習者の 助数詞「本」の意味構造とその習得

金 秀恵

学位取得年月：平成 22 年 3 月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】助数詞、「本」の習得、意味構造、日本語学習者(成人)、
【要旨】

本研究では、母語話者と日本語学習者が持つ助数詞「本」の意味構造を明らかにし、それら 2 つの意味カテゴリーを対照することで日本語学習者が構築する意味構造は母語話者のそれとどのような相違があるかを明らかにすることを目的とした。

調査の結果、日本語母語話者と韓国人日本語学習者持つ助数詞「本」の意味構造は、「一次的に細長い」である物に対しては違いがないが、形状が細長くないものや抽象物についてはかなり違いがあることが分かった。そして、韓国人日本語学習者は助数詞「本」について「細長い」という狭い範囲でしか捉えられないが、日本語母語話者はより広い範囲で捉えていることが明らかになった。

(きむ すへ)

中日接触場面の初対面会話における スピーチレベルの考察 — 中国人上級日本語学習者と日本語母語話者の比較 —

呉 曉婧

学位取得年月：平成 22 年 3 月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】スピーチレベル、シフト、基本レベル、中国人上級日本語学習者、日本語母語話者
【要旨】

本研究では、中日初対面接触会話に焦点を当てて、中国人上級日本語学習者と日本語母語話者の初対面会話を対象とし、学習者と母語話者のスピーチレベルの選択とそのシフトについて比較分析した。その結果、学習者は「+レベル」基調、「-レベル」基調、基本レベル不明確の三つが観察されたのに対し、母語話者は「+レベル」基調、「-レベル」基調の二つであった。双方は同調している会話と同調していない会話も観察された。また、学習者が一旦基本レベルからシフトすると、元の基本レベルへ戻るのが母語話者より遅れることが分かった。さらに、学習者と母語話者が基本レベルからシフトしやすい状況については同異点が観察された。

(ご ぎょうせい)